

東海道新幹線コンクリート壁が一部落下！

**利用者からも不安の声「新幹線からの警告を見逃すな」
早急に長大トンネル、橋梁の老朽化対策を！**

マスコミは1月18日、静岡県内の東海道新幹線のコンクリート壁の一部が高さ4桁の高さから道路上に落下したことを報じました。数年前、山陽新幹線のトンネル内でコンクリート壁が落下し、走行中の列車に衝突する事態も発生しました。通行人や車への被害がなかったからいいというものではありません。東海道新幹線でもこのような事故が発生して、乗務員・乗客への被害が発生しないとは限りません。会社は「付近の緊急点検を実施しほかに剥がれるおそれのある部分はなかった」としていますが、早急に全線に渡って点検を実施、対策を採るべきです。

JR東海はこの間、東海道新幹線の老朽化対策、特に長大トンネル、橋梁の対策を早急に行うよう会社に求めてきました。このコンクリート壁落下事故は、開業から約半世紀を経過した東海道新幹線の老朽化が顕在化したものといえます。長大トンネル、橋梁の老朽化対策はリニア開業後で間に合うのでしょうか。最近では高速道路のトンネル内で天井版が落下し大惨事が発生しました。今回のコンクリート壁落下事故を軽く受けとめず、早急に東海道新幹線の老朽化対策を進めるべきです。



東海道新幹線三島車両所の高架を支えるコンクリート壁から落下した破片（JR東海提供）

コンクリート壁落下

長泉のJR新幹線高架

JR東海は17日、長泉町下土狩の東海道新幹線の高架を支えるコンクリート壁の一部が剥がれ落ちていたと発表しました。

落下したコンクリート壁は4個計約6㎡。最大で縦40センチ、横25センチ、厚さ8センチ、重さ5・7トン。高さ約4桁の箇所から道路上に落下した。JR東海本社によると、けが人や車などへの被害はないという。沿線の住民が15日朝に発見した。同社では、落下の原因を「劣化により剥がれ落ちた」と推定し、詳しく調べている。17日、同社社員が付近の緊急点検を実施したところ、ほかに剥がれる恐れのある部分はないという。

新幹線からの警告を見逃すな

介護福祉士 校條 清

（埼玉県川越市 53）

「高架橋からコンクリート片」（18日朝刊）の記事にぞっとした。東海道新幹線三島駅そばの高架橋側面から重さ約6㎡のコンクリート片が、はがれて落下したとのことだが、もし人に当たったら大けがをかわせたくもみられない。

私はこのアクセシビリティを「新幹線からの警告」と捉えている。東海道新幹線は今年の10月で開業49年。長年、新幹線を支えてきた橋だから、故障が起きて当然だ。

私はこのアクセシビリティを「新幹線からの警告」と捉えている。東海道新幹線は今年の10月で開業49年。長年、新幹線を支えてきた橋だから、故障が起きて当然だ。

り前だろう。本来なら「リフレッシュ休暇」を与えてあげたい。だがそれは不可能に近い話だ。

そこでせめて、数日だけでも早急に使用を制限し、高架橋の負担を軽くしてあげること提案したい。そして、検査や補強を徹底的に行うのだ。その際、目視だけでなく専用機器を大いに駆使してほしい。JR東海は「強度に問題はない」などと言わず、警告を真摯に受け止め、取り返しのつかない事態だけは絶対に避けてほしい。